令和７年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選大会展望

【完全版】

文:中島　洋己
（（一社）静岡県バスケットボール協会広報委員長・県立駿河総合高校教諭）

令和 7 年度全国高校総体静岡県予選が令和 7 年 5 月 24 日に開幕する。地区予選を勝ち抜いた男女各 32 校が初日に 1,2 回戦、翌 25 日に**雄踏総合体育館**で準々決勝を行い、6 月 7 日に袋井市・**エコパアリーナ**にて準決勝と 5 位決定トーナメント、8 日に同じくエコパで決勝戦と各順位決定戦が行われる。優勝校は 7 月 27 日に岡山県岡山市・**ジップアリーナ岡山**および**岡山市総合文化体育館**で開幕する**全国高校総体**へ、上位 3 校が 6 月 21,22 日に三重県四日市市・**四日市市総合体育館**と**四日市市中央第 2 体育館**で開催される**東海高校総体**への出場権を獲得する。

今年度も例年同様、各ブロック総体優勝チームの所属都道府県に年末の**ウインターカップ追加出場枠**が与えられることになり、東海総体優勝チームを輩出した県はウインター出場権が「増枠」となる。昨年は岐阜県がその特権を生かし、美濃加茂・岐阜女子が東海総体優勝でまずプラスワン、そして両チームがインハイで決勝に進みさらにプラスワン、男女ともに男女各 3 チームがウインターに出場するという歴史的快挙を遂げた。その反面、長年男女とも複数チームが出場していた愛知県は男女とも 1 枠の出場権となり今年はその雪辱に燃えて、静岡・愛知・岐阜の三つ巴の争いとなるだろう。どの県も喉から手が出るほど欲しいウインター追加出場権、増枠を狙うためには静岡県もより強いチームを東海総体に送り込み、ウインターカップの追加出場枠を獲得する使命も担ってもらいたい。なお、ウインター出場枠が 2 枠になった場合、県予選は**決勝リーグ制**、3 枠になった場合はトーナメント制に付随して **3 位決定戦**を行うことが決まっている。

加えて、この大会は**全日本選手権（オールジャパン:天皇杯・皇后杯）**の出場選考も兼ねている。上位 2 チームが 8 月に**静岡県武道館**で行われる**静岡県予選**の出場権を優先的に獲得(繰上対象は 4 位まで)、県予選上位 2 チームが 11 月に愛知県で行われる**東海ブロック予選**に出場できる。東海優勝チームのみがオールジャパンに出場といういばらの道ではあるが、最終的には「バスケの聖地」**代々木第一・第二体育館**でのプレーにつながることは選手のモチベーションを高めるに間違いない。さらに県総体優勝チームには 8 月に開催される「**U18 日清食品ブロックリーグ**」への出場権が与えられる。このリーグ戦は今年で 4 年目となり昨年まで静岡県勢は「**U18 日清食品東海ブロックリーグ**」に所属して 2 ヶ月に渡り東海 4 県の強豪としのぎを削り合い昨年は初めて静岡県でも開催された。今年からレギュレーションが大幅に変更され、基本的に各都道府県枠が「1」、チーム登録数の多い 9 都道府県に「プラス 1」、前年度優勝チームを輩出した都道府県に「プラス 1」、さらに「参入戦」なども開催可能になり、昨年は男子のみに導入された**B.LEAGUE・U18 下部組織**の参入や、クラブチームの出場機会も創出され部活とクラブの垣根を超えた環境作りが整ったと言える。普段決して交わることのないクラブチームとの対戦は何事にも代えられない貴重な経験となるはずだ。ただ今年度に関して静岡県は男女とも出場枠が 2 枠から「1 枠」に減少した事実は本当に残念でならない。さらに、ブロックも東海・関東・北信越などの 9 エリアをベースに 8 グループに再編成、他ブロックとの対戦機会も創り出された。静岡県は男女とも愛知・岐阜・三重の東海勢に加え東京・神奈川の代表と同グループ、加えて男子は栃木・山梨の関東勢、女子は茨城・岩手と同グループとなり全国大会でないと対戦出来ないチームとの対戦も可能になった。なお、昨年・一昨年と藤枝明誠が出場した「**U18 日清食品トップリーグ**」はすでに前年度上位 4 校の出場が決まっていて、残りの 4 校はインハイや各ブロック総体の成績

をポイント換算して後日発表される。インハイ・ウインターと並び、「**新・高校三冠**」と称される大会への推薦出場も選手たちには大いなる励みとなる。この 4 月に竣工され、ベルテックス静岡の試合でこけら落としされたばかりの**北里アリーナ富士（富士市総合体育館）**で 10 月にトップリーグが県内初開催される予定になっている。本県チームがトップリーグに選出された場合、県総体準優勝チームが繰り上がりでブロックリーグに推薦されることになるので、各チーム 1 つでも上の順位を貪欲に狙ってもらいたい。

また、今大会から県総体でも「**7 位決定戦**」が導入されることとなった。今年の県新人で初めて導入され、静岡学園-韮山戦、静岡東-静岡商業戦ともに白熱した戦いを演じて実施が成功であることを証明してくれた。県総体の順位はウインター県予選のシード順に大きく影響し、地区予選を経る県新人・県総体では「地区」に割り振られるのに対し、地区予選のないウインター県予選では「該当チーム」にそのまま割り当てられ、さらに完全トーナメント制で行われるため決勝まで第 1 シードとの対戦を回避することができる。もちろんそのようなネガティブ思考では優勝などは絵空事、他にも強豪チームがひしめき合っていることは事実であるが、少しでも有利な展開で結果を求めているロジックでは、この 7 位決定戦が「単なる 1 試合」に終わらない重要な一戦になることは間違いない。

さらに、この大会の地区予選から**県協会公式アプリ「静岡バスケ」**を正式導入されている。開発企業の**（株）ookami** のご協力のもと県新人で試行運用を行いおおむね好評を得て、その後県協会の理事会で時間をかけて吟味し、さまざまな建設的な意見をいただき持続可能なアプリ運用を継続するための運営組織を立ち上げ、今年度から全種別で正式運用することとなった。すでに地区予選でも予選リーグから全会場全試合の結果配信を行い、ホームページから情報を探るだけでなくアプリから情報を送るスタイルも定着しつつあると自負している。もちろんこの県総体でも運用を続けるが、まだ「アプリ元年」、情報発信する側も試行錯誤での運用開始となり、皆様には暖かい目で運営を見守っていただきご支援を賜りたい。加えて会場主任の先生方も事前準備にひと手間かけてしまうことに心苦しい思いではあるが、「新しいスタイルの情報発信システム」と捉えていただきご協力お願い申し上げたい。なお、最終結果や正式記録は従来通りＨＰ掲載のものであることを申し添えたい。

この大会展望執筆においても、毎回私の右腕・**山口裕史**県協会広報副委員長、そして左腕・**三宅凌**広報委員に多大な御尽力をいただいた。私自身今年度も報道部（放送部）の主顧問となり、さらに高文連関連の業務も加わり時間の確保が難しい中で、お二人が奔走し情報収集してくれた。感謝の気持ちでいっぱいであるとともに、毎回の大会展望を楽しみに待ってくれる皆様のためにそれらの資料と私が蓄積した情報をベースに今回も大会展望を執筆させていただいた。客観的事実の間違えや人名のミス、場合によっては私の主観的が混じった表現があるかもしれないがご容赦いただき、執筆の趣旨を理解して観戦のお供にしてもらえればと思う。

私にとってこの大会で例年ウインター県予選プログラムの表紙・裏表紙・そして目次・扉絵に載せる選手の人選も楽しみである。あくまでバスケは団体スポーツで個人の力量だけではどうにもならない部分もあるが、「静岡県高校バスケの顔」となる 47 名を選ぶこの上ない大役を任されていることを誇りに思い、選手以上に全力を尽くしてこの展望を筆耕し、大会では指導者の采配や選手の一挙手一投足に目を向けながら観察して、重責を感じながら選考にもあたりたい。

【男子】

今大会も県新人3連覇、東海新人でも圧倒的な強さで2年ぶりの優勝を遂げた藤枝明誠の強さが群を抜き独走態勢に拍車がかかっているが、東海新人に出場した浜松開誠館や浜松学院、そして中部新人4連覇から県新人初の4強入りを果たした静岡商業や上位校の沼津中央・城南静岡・静岡学園・韮山・浜松西・浜松商業などが優勝争いに絡むとともに東海総体出場権を賭けた熾烈なバトルが展開されるであろう。また留学生が合計5人、有するチームが3チームとなりこれはともに過去最多を数える。一段とグローバル化が進み、高さへの対応が急務にもなってきた。

左上のブロックは、中部総体4連覇から一気に県総体4連覇、その先には東海制覇そして全国制覇を見据える第1シード・藤枝明誠の独壇場になる可能性が非常に色濃い。そして準々決勝で絶対王者への挑戦権を賭けて東部総体準優勝・韮山と西部3位の浜松西が争う構図が予想される。

ティフェンディングチャンピオン・**藤枝明誠**は東海新人で近年静岡・愛知を凌ぐ強さをも見せる岐阜勢の美濃加茂・高山西を連破して2年ぶりに東海を制した。中部総体でも決勝で静岡学園を寄せ付けない天下無双のプレッシャーディフェンスで下し大会19連覇を果たした。現在県内67連勝中、3大大会9連覇、春の能代カップでも準優勝、今大会でも優勝の大本命、一昨年来主力が実践を重ねて経験値を上げていることも心強い。当然当面の目標は県制覇であるが、2年ぶりの東海総体優勝も色濃く感じられる絶対的な戦力を誇る。

エース・**野津洸創**はすでに大会展望でも魅力やテクニックは語りつくした。まさに今大会男女を通じてナンバーワンの注目選手、オールラウンダーやファンタジスタという言葉では語りつくせない魅力がある。華やかなプレーも多くそこばかりに目が行きがちだが、球際を中心とした堅実なプレーも多く、他のプレーヤーにも見習って欲しい部分も多い。3月末に行われた「おきなわカップ」では3位入賞、その試合で監督から問われたいたってシンプルな質問「エースとは何ぞや」という問いに真っ向から自問自答し、ゲームそして大会を通じて当たり前のことを継続して行い、フォーザチームの意識を徹底、名実ともに真のエースとなる姿が伝わってきた。ウインターで歴史に残る大激闘を演じた東山から千葉ジェッツに入団した瀬川琉玖はU15クラブ・ゴッドドア時代に同じ釜の飯を食べその後の野津のバスケ人生にも影響を与えた先輩、その薫陶を胸に彼が瀬川を超える選手になる可能性は十分あると思っている。野津の次の世代としてチームを支えるのは**渡邊聖**。高い得点力と勝負強さを誇り、短時間に爆発的な攻撃力を見せ、クラッチタイムならぬ「渡邊聖タイム」とも巷(ちまた)では呼ばれるほどのアンタッチャブル、東海新人決勝で見せた22得点の活躍は彼の魅力の一部分にすぎない。同じ試合で23得点した野津との連携も抜群、普段からコミュニケーションを密にしている証、留学生ばかりに頼らないバスケットの象徴が垣間見られた。その他東山戦での超美技ブロックショットはいまだ語り草、リバウンドへの嗅覚に優れ相手にも観客にも「そこに居たのか!!」と思わせるプレーを見せる**篠原遼太**、ウインターで話題になった「セカンドユニット」が今では主力に、途中出場した美濃加茂戦では全員二桁得点を挙げた**髙松悠季・徳田翔太・福間聖也・柴田陽**、ウインター・新田戦での大活躍が忘れられない**金子來樹**、そして偉大な先達・ロードプリンス引退後、県新人・東海新人やカップ戦で全国の留学生と対戦し技を磨き上げ、静岡学園戦では第1Qだけで16得点を挙げ無類の強さを見せた 201cm **アメーエマニュエルチネメルン**など、中部総体を見る限り冬から相当の上積みが感じられこのまま全国制覇も夢ではない充実ぶりである。新戦力においても、明石望海中学(兵庫)で全中出場、野津のクラブチーム後輩として Jr.ウインターでも上位入賞、中部総体決勝でも堂々スターティングファイブとして二桁得点を挙げた**福本彩人**を始め、その試合で途中出場し

た**関口凛太朗**や秋にモンゴルで開催される「U16 アジアカップ」のエントリーキャンプにも召集された**端野恵音**も中学時代に全国を経験、今年も一線級の新入生が揃った。そしてもう一人、セネガルからの留学生・202cm **ンバイモドゥ**も加わった。静岡県初の五十音「ん」から始まる選手、すでに中部総体でスタメン起用もされて実戦経験を積み始めた。見ての通り若干まだ線が細いため、当たりに対して後ずさりする場面が見られたが、まだまだこれからの選手、先輩エマニュエルの後姿を見ながらまずは日本の生活環境とバスケに慣れていって欲しい。頭二つも三つも抜けた全国レベルの戦力で、足元を固めながら狙うは全国制覇しかない。

東部新人に続き地区大会準優勝を果たした**韮山**は県新人 8 位、そして東部総体では最大の山場となった準決勝で同じく公立の雄・三島北と対戦、第 4Q 開始時点ではわずか 2 点差の大接戦から一気に突き放し 17 点差でライバルを下した。今回は 2 回戦で西部の強豪・浜松西、その次は藤枝明誠と難敵が続々と待ち受けるが一戦必勝、油断せずにまずは目先の戦いに集中したい。

中心となるのは**新藤穂月**。私はこの選手を 2 月に御殿場で初めて見たが、機動力・得点力・ゲームコントロールに定評があることは評判通りであったのはもちろん、水も漏らさぬ鉄壁なディフェンス力には驚いた。静岡学園戦、相手の中心選手に早くから密着し、攻撃の起点を出させない守備で持ち味を封じ込めるインテリジェンスあふれるテクニックに思わず驚嘆した。フィジカルを生かしながらメンタルを一定に保ってプレーできるスコアラー、私は今大会注目選手の 1 人に自信を持ってこの選手を推したい。驚くことにまだ 2 年生、末恐ろしさを感じる大器である。そしてもう一人 2 年生・**井上峻輔**も県新人を経て成長した選手、三島北戦・沼津中央戦ともに 20 得点、派手なプレーはないが安定した堅実が目を引くバイプレーヤーである。その他にも、飛び道具も放つ**水野颯介**、180cm の長身を生かした攻守に渡るゴール下のプレーが光るリムプロテクター・**岡本心真**、中盤として内外の橋渡しを器用にこなす**川村蓮**、沼津中央戦でも序盤早々から途中出場し華麗に 3P を決めた**佐久間金助**、そして監督の懐刀として選手との潤滑油的な役割も果たし、静岡学園戦ではここぞという場面で起用され「いざ鎌倉」とばかりまっしぐらにコートに躍り出て見事に期待に応えたチームの精神的支柱であるキャプテン・**深澤昂士朗**などの面々で、県新人に続く 8 強を狙う。そのためには浜松西戦が最大の修羅場となるだろう。

浜松西は今春新監督に**小野田宏親**氏を迎えた。言わずと知れた県内トップレベルの指導者、現役時代は浜松西でインハイ出場経験もある OB 監督、指導者としては浜松市立を率いて令和 2 年のウインター県予選で準優勝、国体の少年女子監督も務めた。僭越ながら私も浜松市立で 5 年間小野田監督の腹心として携わらせて頂くという幸運に恵まれたが、その当時から妥協を許さない徹底的した指導と明確な具体性と首尾一貫性に富んだ戦術の指示、そして厳しさの中にも選手への愛情を忘れない教育者としての姿勢は私にとって現在のバスケット観の礎を創ってくれた恩人である。浜松市教委での教育行政勤務を経て 3 年ぶりの現場復帰、心から「お帰りなさい」という言葉をかけるとともに、自身 15 年ぶりの男子指導そして愛する母校の後輩たちを鍛えていく姿に注目したい。

チームは県新人 2 回戦で静岡学園と対戦、私もその試合を直接見させてもらったが終始リードを奪われる苦しい展開の中でも相手の嫌がることを徹底的に仕掛け続け、実力は県新人 8 強、つまり今回のエイトシードと全く遜色ないことは誰の目から見ても明らかである。チーム全体がファウルトラブルに苦しんだその試合で孤軍奮闘したのがチームの大黒柱・**尾藤遥陽**。この選手のキャリア・ポテンシャル・テクニックそしてキャプテンシーを述べ始めたら紙面がいくらあっても足りない。驚異的な跳躍力から繰り出されるリバウンド支配だけでなく、バリエーション豊かな攻撃パターンや仲間の長所をさらに引き出す波及効果も生みだし、火が付き始めたら止まらな

い「尾藤劇場」が待っている。静岡学園戦では相手の徹底的な研究とマークに苦しんだがそれでも 17 得点、「要所はやはり尾藤」という試合であった。**関宮怜央**も尾藤とともにチームの要、静岡学園戦では序盤でファウルがかさみ持ち味の積極的なディフェンスが影を潜めた感があったが、元来強靭なフィジカルと躍動感あふれる攻守、そしてスタートダッシュが特徴の選手、ホイッスルを恐れることなく積極的に前に出続けて欲しい。**山田悠睦**はチームの窮地に人一倍力を発揮する選手、スコアシート上の数字だけでは読み取れない貢献度がある。スタッツを見ればリバウンド･アシスト･ステイールなどでどれだけ彼がチームととって不可欠な存在なのかがわかる。他にも、独特なリズムで相手とのズレを生じさせ果敢にゴール下に持ち込む**福澤生也**、静岡学園戦でもスタメン出場して観客を沸かす美技を数々披露、最後まで競りに競った西部総体・浜松商業戦では随所に 3P を放ち 3 本も決めた**辻本直矢**、要所で途中起用される監督の期待に応える積極的なプレーを見せる**武田倫太朗**、オールマイティに何でも出来るプレーで試合をつなぐ役割を果たす**坂本陽樹**など例年以上に戦力は充実している。また控えメンバーでも十分に戦える戦力を備え、特に山口広報副委員長は**佐藤匠**が見せるクオリティーの高いプレーを非常に高く評価している。速いトランジションによるファストブレイクを常に狙いながら、息の合ったハーフコートバスケで 3 年連続の県総体 8 強を狙う。

このブロックの注目選手として、**髙平爽太・小森蒼斗・工藤蒼空・永田貴陸・佐々木煌生・戸田湧大**(藤枝明誠)、**袴田悠翔・坂本斗空・田中有翼・井田康介・小田木茉悠・杉村大毅**(浜松湖東)、**平野琉太郎・荻田翔葵・近藤丈太郎・鈴木優・菊池泰我・飯村湊太・平山蒼空**(東海大静岡翔洋)、**曽根田澄真・太田一平・望月敬斗・安藤悠翔・溝口穣治・片瀬巧・塩崎虎次朗**(静岡東)、**髙杉理己・山口大翔・南茂昌悟・渡邊陽斗・日吉駿介・奥地翔**(日大三島)、**濱津俊太・新村爽・奥本悠太・勝亦瑛太・柏木勇志・小林大騎**(伊豆中央)、**山田慎二・深澤慎之介・土屋凛空**(韮山)などを挙げたい。

左下のブロックは、準々決勝で雌雄を決することが予想される中部総体準優勝の静岡学園と東部総体を制覇し一気に 9 年ぶりの県総体賜杯奪還を見据える沼津中央が他を大きく引き離し、一騎打ちとなる公算が高い。しかしながら、昨年この大会 7 位・西部総体 4 位の浜松商業がこのブロックにいるのは両雄、特に沼津中央にとっては不気味な存在に映っているに違いない。

静岡学園は中部新人決勝・5 点差で敗れた静岡商業と中部総体準決勝で再戦、最終盤一時は 5 点差まで猛追するライバルを振り切り中部総体準優勝で今大会を迎える。県新人ではこの 5 点差での敗北が当然ながら組み合わせで如実に表れ苦しい戦いを強いられたが 2 回戦で浜松西に快勝しベスト 8 進出、続く浜松学院とのブロック決勝でも敗れはしたものの互角以上の戦いを披露し最終的に韮山との 7 位決定戦を制して春への足掛かりを作った。中部総体では昨年、そして今年の中部新人で連敗したライバル・静岡商業を激戦の末下し、中部 2 位・第 4 シード位置で今大会を迎える。目指すはもちろん四半世紀ぶりの優勝・全国出場であるが、まずは県新人で敗れた沼津中央にリベンジし、7 年ぶりの東海総体出場に王手を賭けたい。

下級生時代から実践を積み重ねた選手が主力となり、県新人での悔しさから県外を中心とした強化試合を重ね地力が上積みされた感が伝わってきたのが中部総体を見ての印象。その中でも早くから飛躍を期待されてきた**小永井優磨**が完全復調、静岡商業戦でも攻守両面で持ち味のヘジテーションを披露しライバルに付け入る隙を見せず、2 年前の中部総体決勝で見せた輝きを完全に取り戻した。今大会も東海を目指すには彼が繰り出す天賦の才能に満ちたコートビジョンの広いバスケットがチームには不可欠である。**内山直陽**は押しも押されもせぬエースに成長、今大会

では特に心技体の「心」の部分に大きな成長が見られた。一言でいえばオールラウンダーであるが、軽々しくこの一言で片づけてもらいたくない選手である。インサイドでの位置取り、ショートコーナーからの華麗な攻め、ペイントエリアで打ち気を十分見せておいての合わせに来た仲間に出すアウトレットパス、ハイポストで見せる教科書通り重心を落としながら動かないスクリーン、そして絶妙のタイミングで放たれる 3P どれをとっても一流のプレー、エコパで多くの観客に見てもらいたい選手である。動画や SNS 全盛の昨今では我々が想像もつかない早さで情報が拡散し各チームも対策を講じてくるのが世の常(つね)、私が相手監督なら限界があるのは百も承知で多少の犠牲は覚悟してでもマークマンにフェイスカードで徹底的に守らせる。その時に日々指揮官から教えを受けた「静学スタイル」フィロソフィーのもとで彼がリズムを崩さず自分のバスケをコート上で体現できるか、成長の過程において大きな期待を込めながら真価が問われる瞬間を迎えている。その他にも、国スポ 3 位の原動力・静岡県を代表する司令塔に成長、県選抜でも静学でも栄誉あるキャプテンを務め、喜怒哀楽を決して見せないポーカーフェイスから見せる多彩なカッティングでタフショットをことごとく決める**大長真士**、日本代表・市川真人に代表される静学が誇るインサイド陣の魂を脈々と受け継ぎ、190cm の恵まれた体格で接触を恐れず相手の嫌がる泥臭い選手に成長した**小野田礼輝**、課題であった好不調の波を見事克服し、持ち前のビッグストライドで高い打点から放たれるレイアップが決まる**五條漱士**のスタメン勢以外にも、途中出場してもすぐさま攻撃に絡み随所で得点を入れる**石井蓮音**、183cm の恵まれた体格を武器に守りでチームに貢献する**細澤慧太郎**、そして中部総体決勝の檜舞台で途中出場し、完全ミスマッチである 2m オーバーの留学生に堂々マッチアップ、シールを許しながらの留学生対策のお手本とも言える脚の入れ方が素晴らしく藤枝明誠留学生が苦悶の表情を浮かべた**鈴木麻也**など層の厚さも際立つ。準々決勝で予想される沼津中央との再戦は県新人と比べ物にならないハイレベルな展開が予想される死闘となるだろう。

沼津中央は東部総体決勝で東部新人決勝以来の再戦となった韮山に快勝し 12 年ぶりに東部総体を制し第 5 シードでのエントリーとなる。県新人ではブロック決勝で浜松開誠館に競り負け 4 強いを逃したがその後は危なげない試合展開で 5 位を確保、今大会ではまず 2 年連続となる東海総体出場を目指すが静岡学園、藤枝明誠という強豪との戦いが予想され一瞬たりとも気が抜けない戦いが続く。

このチームの特色は何と言っても留学生 2 人を有し、その 2 人がオンザコートツー出来ることが強み。県内最高身長 206cm・**ハビブアテイザカリファ**に関して昨年度は当然ながらゴール下のリバウンド中心の役割を担ってきたが、東部総体ではその支配力に力強さが加わるとともにスキルレベルも格段に上がった。韮山戦でも 20 得点、セカンドチャンスだけではなく自らゴール下にカッティングし味方にボールを落とさせるプレーも目立った。各チームとも留学生対策が急激に進む中で相手に対応させない破壊力を持つ。192cm **エルデネサイハンエルデネバド**は指揮官によるチームバランスの判断によっての出場となるが、限られたプレイングタイムの中で常に結果を出せる選手、カフリァと同時出場時はやや中盤に下がってつなぎの役割を、高木とのツインタワーでは阿吽の呼吸を見せ、時にはアリウープやダンクも披露する。今大会注目選手の一人・191cm **高木強臣**は驚異的な跳躍力が持ち味、ブロックショットやピック&ロールを多用し、浜松開誠館・後藤とともに数少ない留学生と互角に渡り合える日本人大型センターと言える。春の強化大会 KAZU CUP では大会優秀選手にも選ばれた逸材、高木が出場するとチームが「4 アウト 1 イン」としても機能するのが興味深い。その他にも、途中出場した県新人・静岡学園戦では 3P5 本を決めて勝利の立役者となった**村上幸斗**、長距離砲を含めどんなプレーでもそつなく器用にこなすキャプテン・**本間嵩武**、1on1 には絶対の自信を持つ**渡辺碧波**、スプリントダッシュに注目

したい**大濱良太**、そしてまさしく「突貫選手」の異名が似つかわしいドライブの名手、中学の偉大なる先輩・富樫勇樹(千葉ジェッツ)に追いつくべくコートを走り回りアウトサイドから度胸満点の 3P も放つ**中島清之介**など、走ってワイドオープンを作りそこにボールを集めるバスケにブレイクと堅守を織り交ぜたバスケで準々決勝での静岡学園戦に勝ち、まずは 2 年連続の東海総体出場への足掛かりとしたい。

浜松商業は 10 年間に渡り指揮を執り令和 4 年のこの大会では県 4 強に入るなど見事に古豪を復活させた**安田大佑**監督が浜松湖南に異動、新監督に浜松西を 13 年間指導し東海新人にも出場して勝利も挙げた**本間光一**氏を迎えた。ご存じ浜松商業と浜松西は県内屈指のバスケ強豪公立校、西部総体 3 位決定戦でも火花を散らす激闘を繰り広げたライバル校、年度末まで浜松西の指揮官だった本間氏が浜松商業で采配を振る姿はプロ野球に例えれば、まさに「巨人の監督が直後に阪神の監督に就任した」ような感じである。浜松西には 9 点差で惜敗して 4 位となったが、指導手腕には定評があり色々な戦術を持つ策士中の策士である新指揮官の下で才能あふれるプレーヤーたちはさらに能力を開花させていくだろう。チームの特色は、機動力を持ち味に速い展開でシュートまで持ち込み、アーリーオフェンスでもフリーを作り出す動きが意思共有されており、相手がシュートを打った後は必ず誰かが速攻を狙って走り出す。それもただ闇雲に走るのではなく、意志を持ったクイックネスを見せる。エース・**小島颯也**のパスセンスは天下一品、針の穴をも通すようなボールコントロールでわずかに見えるディフェンスの隙間から前を走る味方の手元にボールを送る。その正確さは上手の手から水も漏れない。**山下晴輝**は速攻でレイアップを狙う際もディフェンスの位置やサイズによって多彩なフィニッシュを見せる。他にも、昨年この大会で小島の欠場を埋める活躍を披露、筋肉隆々の鍛え抜かれた肉体美からパワフルなプレーが飛び出す**千葉勢太**、昨年のウインター県予選・静岡学園戦ではインサイドを任され勝利に貢献した**和田悠慎**、和田とともにインサイドを任されゴール下を堅守する**辻村未来**、全中・Jr. ウインターにも出場経験のあるキャリア抜群のルーキー・**伊藤来晟**など、どの選手がコートに出ても変わらない走力を持ち、誰が出ても共通のポリシーのもとに同じバスケットを展開する。沼津中央も大会初日から難敵を迎え撃つことになるだろう。

浜松北は県新人同様西部 10 位で 8 年ぶり(7 大会ぶり)に県総体出場を果たした。山口裕史広報副委員長が主力を務めた平成 11 年県総体では 4 強入りし決勝リーグ(当時)にも出場、浜松市体育館で山口氏の雄姿を見た試合が私にとっても高校バスケ初観戦とだったことを思い出す。

今年のチームは抜群のキャプテンシーを持つ**花村颯真**主将を中心にボックスアウトを徹底し相手にチャンスを与えない守りと鍛えられたフィジカルでゴール下に切れ込み相手との接触を嫌わずシュートを決め続ける攻撃が強み。試合の流れや相手チームの調子を見ながら攻め入れる場所を適時に判断してオフェンスを展開する。**山本大馳**がオフェンスをコントロールし、落ち着いてパスを回しながらフリーになれば積極的にシュートを狙い、**佐藤悠**は外からのシュートやドライブなど長身による優位性を生かしたプレーを展開、**尾嶋奏亮**は強靭なフィジカルを武器にインサイドで体を張りシュートをねじ込むプレーが魅力、**井伊俊介**は積極的にドライブを狙いファウルレシーブをしてボーナススローにつなげる選手。非常に厳しい組み合わせとなったが、県 1 勝を胸に練習に精進しているであろう。

このブロックの注目選手として、**新堀瑛翔・竹田俊太郎・尾嶋奏亮**(浜松北)、**佐藤蛍帆・木下昊翼・金諒紀・石田真悠・大石千明・佐久間想**(藤枝東)、**川端康太・大橋昭太・江原周侑・杉本光優・石上創士朗・高濱嵯笑**(静岡城北)、**浅利奏磨・土屋愛翔・仲澤猛・海瀬太希・角田**

朔音・山口義斗・塩崎蓮貴(加藤学園)、**井田翔太・岡本有都・藤原陽輝・周梓俊・水口陽翔・田辺蓮斗・森下航陽**(袋井商業)、**坪井達真・久野綾大・松田悠杜**(浜松商業)などを挙げたい。

右上のブロックは、県新人3位・西部総体準優勝の浜松学院興誠を始め、その浜松学院(当時)と東海新人出場を争い敗れたものの最後まで必死に喰らいついて死力を尽くした県新人4位・静岡商業が準々決勝で再戦する公算が高い。東部4位の三島北・昨年県総体4位**飛龍**という東部の強豪もこのブロックに潜む。

浜松学院興誠はこの 4 月に浜松学院から校名変更、昭和 8 年以来興誠商業そして興誠という校名で歩み続け 28 回の全国大会出場を果たしその名を轟かせてきた「興誠」という名称が 14 年ぶりに復活した。西部総体では永遠のライバル・浜松開誠館との「名勝負数え唄」を接戦で落としたが、今大会も第3シードで優勝争いの一角となり、まずは互いに勝ち上がれば準決勝での対戦が予想される浜松開誠館との再戦に是が非でも勝って2年ぶりの東海総体出場を決め、8年ぶりの全国、そして27年ぶりの優勝にも王手をかけたい。

戦力的には昨年来経験を重ねてきた西垣・末永のダブルエースを中心とした主力が最上級生となって本領を発揮してくるはずである。天才肌のプレーヤー・**西垣玲央**はディフェンスから相手のミスを誘いボールを奪って速攻に持ち込むのが持ち味、オフボールでもマークマンから離れず守り抜く脚力は努力の賜物、ルーズボールに飛びつく泥臭さも目を見張る。ハーフコートバスケでは**末永蒼**が高いオフェンス力を披露する。中学時代全国3位にもなった県内屈指のトップアスリート、敢えて課題を言わせていただけばもう少しブレイクから放たれるシュートの精度を上げさえすればさらに得点は増えるだろう。県新人で脚光を浴びたのが**藤井惺楽**。全試合でコンスタントに貢献したが、真骨頂は東海出場を賭けた静岡商業戦、チームがフィールドゴールとフリースローだけで勝った試合で最多の16得点、脚力を使った攻撃にとどまらず堅実なディフェンスで相手の反撃の芽を摘んだ守備は今でも私の目に残る。昨年のインハイ準優勝・美濃加茂と対戦した東海新人でも24得点、対戦チームはこの選手への対策も怠れない。その他にも、静岡商業戦で 12 得点・巧みなアシストやスティールも見せた**伊藤太良**、年始の Jr. ウインターに浜松学院中学(当時)で出場、193cm の長身を生かしたインサイドプレーだけでなく外からのドライブも器用にこなし、高校入学後即スタメンを飾り体格に似合わぬスピーディーなプレーを見せた大型ルーキー・**薗部良介**、東海新人にも出場して得点を挙げた**佐藤瑞樹・宮澤政人**、中学の先輩である末永の背中を見てバスケのいろはを学ぶ**小林莉空・榎本澪**など優勝候補の一角に挙げるには十分すぎる戦力である。さらには初のアフリカ系留学生、ナイジェリア出身・203cm **オビオラクリスティーン**が加わった。過去三重県在住の中国人が 2 人在籍したこともあったが 2 人とも日本人扱いで実質的には学校初の留学生かつ静岡県西部地区にとっても初の留学生、高い身体能力を持っているのでバスケット技術を早く習得しこれからの成長に期待したい。

中部総体3位の**静岡商業**は初出場した県新人決勝リーグでいわゆる「私学3強」と互角の戦いを演じ、貴重な経験を積んだ。特に浜松開誠館戦では試合終了6分前に2点差まで追い上げ難敵に肉薄、「あわや金星か」という期待を抱かせる激闘を見せた。中部総体準決勝は中部新人決勝と同一カードの静岡学園戦、終始互角の戦いを繰り広げ最後は静岡学園の怒涛の攻めに敗れはしたものの今大会でも東海総体争いでは有力候補の一角を占める。今年は「昭和100年」、前回東海総体に出場した昭和50年からちょうど半世紀のメモリアルイヤーに新人戦で果たせなかった50年ぶりの東海出場を実現させたい。

前回の展望でも「全員がエース」と書かせてもらったが、県新人・中部総体を見て今回もその

スタンスは変わらない。しかしながら敢えて1人を挙げるとすれば私は**文谷虎斗**を推したい。強豪集った県新人決勝リーグ3試合で47得点、特に藤枝明誠戦での20得点は翌週の浜松開誠館戦で大善戦の原動力となった。ドライブ・アシスト・リバウンド・スティールなどすべて器用にこなすことも事実だが、ここでは彼の「心」を褒めたい。インサイドの押し合いへし合いで笛が鳴らずフラストレーションが溜まりそれがプレーに影響する選手を多く見かける昨今、アンガーマネージメントがきちんと出来ていて献身的に次のプレーに向かい、味方がストレスフルに感じていると見るとすかさず声掛けをする。そのような献身的な姿を見ている人間がいることを励みにさらなる成長を期待する。**北堀遥大**は言わずと知れたアウトサイドの魔術師、決勝リーグでも14本の3Pを決めた。特にアイソレーションの状況になった時に威勢のいい3Pでも切れ味鋭いドライブでも得点を重ねられる選手、この選手に気を取られすぎると他選手にやられることも多く、各チームは対応のバランスに苦慮するだろう。その他にも、藤枝明誠戦チーム最多タイの20 得点を挙げコートを走り回り無尽蔵なスタミナを見せた**齊藤遙人**、静岡学園戦では相手の出鼻を挫くディフェンスと内外から躍動感ある攻撃を見せた**佐野煌介**、広い肩幅・厚い胸板に象徴される強靭なフィジカルから繰り出されるパワープレーが魅力の**仲山柊志**、浜松学院戦でファウルトラブルに苦しむ仲間の窮地を救うべく起用され見事指揮官の期待以上の活躍をした**富井遼真**、中部総体でピンポイント起用されて役割を果たした**久保山大飛**などスピードある速攻を武器に全員で守って全員で攻める堅守速攻のバスケで浜松学院興誠にリベンジを果たしたい。

その静岡商業が準々決勝に行くためには 2 回戦での対戦が予想される**三島北**に勝たなければならない。両雄は静岡商業が中部新人3連覇を果たし優勝候補の一角として出場した一昨年度県新人2回戦で対戦、静岡商業絶対有利の予想で三島北が僅差のゲームを制し金星を挙げた時以来の対戦となる。三島北は東部総体終盤で韮山・富士宮東に連敗し4位に甘んじたが、実力的には公立高校トップレベルの折り紙付きである。

川上遼賢はミニバス時代から持ち合わせる抜群のバスケセンスでチームを牽引、チームの大黒柱である。怪我で富士宮東戦は涙の欠場となったが韮山戦では貫禄の20得点、ゲームコントロール能力は目を見張るものがあり、心配なのは回復具合だけである。他にも、富士宮東戦で欠場した川上の魂を胸に鬼気迫る闘志でオフェンスリバウンドを奪い25得点を稼いだ**仲野光樹**、外から随所に決まる**北幸治**、固いディフェンス力に定評がある**堤寛大**、181cmの長身を生かしたポストプレーが魅力の**白井比路**、そして川上と小・中・高、合わせて10年間ともに同じチームで歩み続けたバスケの集大成に賭ける高いバスケIQを持つ**亀野広翔**、チームの精神的支柱・**伊藤利通**などの戦力で静岡商業を下し、7年ぶりの県総体8強を狙う。

このブロックの注目選手として、**野中慶人・大住光輝・増田大也・渡邉空聖・藤澤魁人・増田そら・青木蒼甫**(常葉大菊川)、**辻野陽向・山内崇史・岩井貫太・野口永遠・原田峻・本田逸規・杉山煌**(浜松聖星)、**ヴィリャジャンハツ・南條蒼生・齋藤天馬・海野太佑・細川生童・ビエンシャン**(静岡大成)、**小針琉碧・寺本桧・清水獅王・内田瑛梧・笹原翔流・冨永悠生・中村心汰郎・佐藤輝**(飛龍)、**尾形空・朝比奈優馬・本多匠・細井龍・長嶋来樹**(静岡市立)などを挙げたい。

右下のブロックは、県新人準優勝・東海新人でも全国大会72回出場を誇る強豪校・四日市工業を破りベスト8進出を果たした西部王者・浜松開誠館の力が大きく抜けている感はあるが、で三島北・韮山という東部の強豪校を破り昨年の県総体に続き県新人6位を手にした城南静岡、過去最高順位となる東部3位で今回初の県8強入りを狙う富士宮東、そして県新人でベスト16に

入り今回も中部5位で大会に臨む島田工業などの強豪が集い、浜松開誠館の独走にストップをかけるべく必死に追いかける、まさに「死のブロック」の予想を呈する。

前回大会 3 位の**浜松開誠館**は、昨年度の県新人で藤枝明誠と好勝負を演じて準優勝、出場した東海新人でも岐阜王者・富田に敗れたものの東海8強入りを果たした。西部総体も無敵の強さで勝ち上がり、決勝の浜松学院興誠戦でも一度もリードを許さない完璧な内容でライバルを軍門に下し3連覇、さらなる強さと進化を印象付けた。今大会藤枝明誠にとって最大のライバルはこのチームであることは間違いない。留学生がいない純国産チームだが、「日本人センターを育てる」というポリシーのもと、3年前の鈴木や去年の工藤のように全国でも通用するインサイドプレーヤーを育ててきた功績は大きい。堅実な守備を持続する中でチャンスを見出し、相手が戻る前にスピードを生かして攻めて精度の高いシュートを打つ姿勢が徹底されている。県新人や東海新人・西部総体を見ても苦しい展開の中で自分たちが日々やってきたことをどれだけ続けられるか、己(おのれ)と戦っている様子がひしひし伝わってくる。

エース・**高森カイル**は生粋のオールラウンダー、ボールミートしてから目にも止まらぬ速さで放つジャンプシュートはここぞという場面で高確率に決まる天下の宝刀、好不調の波がない安定した攻守で観客を魅了する華のある選手、まさに静岡県が全国に誇るユーティリティープレーヤー、卓越したボールハンドリング技術も特徴、一挙手一投足に注目して欲しい選手である。ウインター県予選以上の活躍を県新人でも見せて期待値がさらに膨らむ**木村晄大**は四日市工業戦で勝利をもたらす27得点、3Pも2本決め外からの攻撃もさらに磨きがかかった。持ち味のドライブも相変わらず冴え渡り西部総体決勝でも22得点、特に第3Q終盤から第4Q中盤にかけての3P2本を含む連続14得点は相手の戦意を奪い取るほどの威力であった。リバウンド・アシストにも才能を発揮し、藤枝明誠・渡邊と並び現在トリプルダブルに一番近い選手と言える。日本人最高身長196cmを誇る**後藤大駕**はアンダーカテゴリーの日本代表経験を持つ逸材、ボールがすっぽり入るほどの大きな手と鳥人的とも言える類まれな跳躍力を武器にダンクシュートも放ち、全国的にも数少ない留学生と互角に対峙できる日本の至宝である。また脚も長くそれがリバウンドの位置取りやポストプレー、そしてドライブ時のステップにも効果的に生かされている。富田戦では器用にも絶妙な軌道を奏でる3Pも3本決め、外からの積極的な勝負にも挑み始めた。勝ち進めば県・東海・全国で続く留学生とのマッチングは永遠のテーマ、自らに課された難題を努力と才能で解決できる力を持つ大器である。高森・木村・後藤の3選手がコートに並んだだけでもこのあとどんなプレーが見られるのかと観戦する側にも高揚感を与えるチームは他には見当たらない。その他にも、四日市工業戦で3Pを含む13得点で勝利に貢献した**吉田澪央**、10得点を決めた藤枝明誠戦でも見せたトリッキーなパスで相手を幻惑させる**宮城琉希**、チームキャプテンを任され身体の強さを生かしたポストプレーとリバウンドに汗をかきながらボールをキープした時の相手への強い当たりを常に意識してプレーを続ける**谷口恒暎**、西部総体決勝でスタメンを飾り、持ち前のハッスルプレーに付随して二桁得点を挙げた**北條隆希**、体を張って相手を中に入れさせないディフェンスを忠実に行う**石田唯翔**、東海新人でも出場機会を得た**岸川藍佑**、そして木村の後輩として中学3年間全中制覇・2年時にはJr.ウインターも制覇、そしてU16の日本代表候補を選出するエントリーキャンプに今春すでに 2 度も招集されるなど過去に例を見ないほどの輝かしいキャリアを引き下げ鳴り物入りで入学、すでに西部総体でも限られたプレイングタイムの中でリバウンド・アシストなど多彩な役割を任され将来を嘱望されている**鈴木柊矢**などの戦力は、王者・藤枝明誠に決して見劣りするものではない。まずは西部総体決勝の再現となるであろう浜松学院との準決勝に勝って5年連続の東海総体出場を早々に決め、悲願の初優勝、そして初のインハイ出場を勝ち取りたい。

城南静岡は中部 3 位で挑んだ県新人で三島北・韮山・沼津中央という東部の強豪との戦いを経て堂々6位、今回中部総体4位・第7シードで初の県4強を狙う。昨年の塩坂・海野のようなスター選手はいないが、個々の能力が高くそれを組織力でさらなる総合力に結び付けるチームである。特徴は3P10本を決めた韮山戦に象徴されるように誰でもどこからでも外が入るファイブアウト主流のバスケ、沼津中央戦でも12本を決め最終Qまで相手を追い詰めた。**大石侑**を始め、**佐野翔礼・望月吹・和賀井翔哉・影山奨真**などから一気呵成に放たれる空中戦を挑まれたらどのチームも太刀打ちできない。加えて今年スーパールーキーとして県協会U15優秀選手・**市川天道**が加わった。兄は昨年まで静岡商業でエースを張った市川昊(小糸製作所)、兄に勝るとも劣らないポテンシャルを持つオールラウンダー、中部総体でも勝気なドライブと巧みなハンドオフパスを見せ2学年上の選手を相手に大器の片鱗を見せた。お家芸であるアウトサイドのバスケットを武器に、まずは2回戦で予想される富士宮東戦をクリアして浜松開誠館との戦いに挑みたい。

富士宮東は東部総体準決勝で沼津中央に敗れたものの 3 位決定戦で三島北に競り勝ち 3 位で今大会に臨む。三島北戦・序盤はハーフコートマンツーを敷くもリバウンドで相手に再三再四飛び込まれ失点が相次ぎ最大6点差のビハインドとなるが、典型的な3&Dプレーヤー・**稲葉蓮**のアウトサイドでつなぎ、さらには焦る相手のファウルトラブルも誘い、目まぐるしくサブスティテューション(選手交代)を繰り返す相手にオールコートマンツーでプレッシャーをかけてターンオーバーを誘発させ、その隙を見てブレイクで点数を重ねるも、自チームもファウルや怪我に悩まされ決め手を欠く展開が続いたが、ドリブルを生かしてゲームをコントロールが出来る 2 年生・**望月虹晴**が持ち前のスキルとシュート力でチームを牽引、チームハイの23得点を挙げ、さらに稲葉も放った8本の3Pのうち5本を決めて自身の役割を遂行するなど、チームの中心となるべき選手がきちんと責任を果たして見事強豪に競り勝った。他にも、シュート・フィジカル・スピードを有機的に配合したゲームコントローラー・キャプテン司令塔である**石川湊**、献身的なリバウンド・ラン・ポストアップを怠らない・**髙田颯馬**、足を使ったDFとスピードあるドライブが魅力の**杉澤慧人**、城南静岡中時代に全中を経験、スコアラーとしてチームを引っ張る**瀧内由馬**、この春まで静岡学園に在籍した兄のプレーを手本に強靭なフィジカルを生かしたディフェンスとハッスルプレーでチームに貢献する副主将・**味岡一輝**、高い身体能力を生かし、中・外どちらでもプレーできるマルティプルプレイヤー・**杉谷勇臥**など多彩な戦力を抱え、2回戦で予想される城南静岡戦を練習で培った「宮東メンタリティ」で勝ち抜き、目標である初の県8強を手中にしたい。

中部5位の**島田工業**は大会ごとに進化を遂げ今回県8強が視界に入る位置で大会に臨む。広いシュートエリアから多彩なオフェンスバリエーションを持つ司令塔・**増田好汰**や専門は中盤ながらも状況によってインサイドを任され激しいリバウンド争いも厭わない**近藤翔太**など実戦と練習に裏打ちされた厚い戦力と怒涛の勢いで上位進出を狙う。

このブロックの注目選手として、**竹内銀河・松原陸・工藤大輔・佐野空良・笠井惺勇琉・望月優**(星陵)、**岡嶋莉央・浅倉勇大・川村吏・白壁昌也・飯島俐人・森西仁**(加藤学園暁秀)、**池谷月楓・後藤彩杜・河村颯大・宮島蓮・登澤朋哉**(島田工業)、**今部陽翔・ポリスティコユリ・江間真都・村本尚輝・河合咲陽・二橋悠生・中澤優乙・エンテスダビデ**(浜松工業)、**佐藤柊・池田蓮・岩田伸之介・戸田旭飛・犬塚就斗・関根悠輝・片桐凰介**(浜松湖南)、**木村零月・町田悠輝・久保山友羽**(城南静岡)などを挙げたい。

【女子】

こちらは現在大会 8 連覇中、3 大大会も 25 連覇を継続中、東海新人でも 4 強入りした浜松開誠館が頭一つ抜けている感もあるが、東海新人に出場して共に勝利を挙げた浜松南や市立沼津、そして県新人で浜松開誠館の連勝を 165 で止める「世紀の番狂わせ」を演じた東海大静岡翔洋に加え、県新人 5 位決定戦でオーバータイムの熱戦を演じた浜松学院・常葉大常葉を含む上位 6 チームによるここ数年なかった群雄割拠と言える展開も十分に予想される。

左上のブロックは、県新人で東海大静岡翔洋に足掛け 10 年に渡る連勝をストップされながらも優勝を勝ち取り、県新人 8 連覇を果たした浜松開誠館が群を抜く強さを誇る。その浜松開誠館への挑戦権を賭けて中部 4 位の清水南と東部 2 位の三島南が火花を散らす展開となる。今大会から 7 位決定戦が新設されたことで、2 回戦で敗退すると 2 試合戦って開幕日で終わってしまうが、8 強に入ればその後の勝敗に関わらずプラス 3 試合、6 月 8 日まで公式戦が続き、会場も県内最大の施設・エコパアリーナ、今大会は 2 回戦の勝敗でその後の運命が雲泥の差、まさに天国と地獄を分けることになる。

浜松開誠館は県新人決勝リーグ第 2 戦で東海大静岡翔洋にまさかの敗北を喫し県内連勝が 165 で止まるという衝撃の結果を経験した。翌日の市立沼津に敗れれば他チームの結果によっては優勝どころか東海出場も逃すという近年にない断崖絶壁の状況で迎えた最終戦はさすがと言うべきか課題を見事修正し勝利を飾った。それでも試合が終わった時、東海出場は確定させたもののまだ隣のコートで東海大翔洋 vs 浜松南の熱戦が続いていて、翔洋が勝てば連覇が止まり、浜松南が勝てば優勝が転がり込むといういわば他力本願の結果待ちという苦しい時間が続いた。私も人一倍多く県内高校の試合を観戦し、上位または下位 3 チームが勝敗で並び得失点差で優勝や全国・東海出場が決まるドラマティックな展開を見て来たが、決勝リーグ初戦に勝った 2 チームが翌試合で共に星を落とし、4 チームすべてが 1 勝 1 敗で並び、全チームが優勝と東海新人出場可能性を有し、さらに両方とも逃す可能性も残して最終戦に挑む展開は記憶にない。この決勝リーグの展開が今年の静岡県女子の縮図であり、今後の展開を象徴するものであると予想する。連勝が止まったあと私は大学の後輩でもある**三島正敏**監督と直接話をする機会があり、敗戦の悔しさの中でも冷静に敗因を分析しもう一度手綱を締め直し、「負けを知ってどうしていくかが大切」という言葉を聞き、この敗戦を単なる 1 敗に終わらせない浜松開誠館の強さが凝縮されているように思えた。翌日の市立沼津戦は前日の課題をきちんと修正、ファンダメンタルに立ち戻った本来のバスケを見せ快勝、隣のコートの結果を待って最終的に優勝を決めた。衝撃のあまり前置きが長くなった。県王者として臨んだ東海新人は 4 位に終わったが、西部総体では県総体でも優勝を賭けて決勝での再戦が予想される浜松南の猛攻を振り切り優勝、新たなるスタートを切って見せた。

中心となるのは一昨年来即戦力としてスタメンに名を連ね、実戦経験を重ねて堂々静岡県ナンバーワンの選手に成長した**前川桃花**。連勝が止まった東海大翔洋戦でも孤軍奮闘 17 得点、この選手の持ち味は下級生時代からどんな試合でも相手のリズムに惑わされることなく自分のバスケを貫き通すことである。従ってゲーム展開に左右されずに自分のリズムでバスケットに向き合い、そこに主将に就任したことでさらに責任感が増し、周りにも気を配りながらチーム全体を統括していく姿勢が県新人・西部総体でも見られた。東海新人・桜花学園戦で 6 本決めた 3P を始め、ドライブ・ジャンパーなどのテクニカルな部分はもちろん超が付く一流であるが、ミスが少

ないことが起用する側とって一番頼りになり安心感を生むのが特徴である。3 月には夏に中国で行われる「日・韓・中ジュニア交流競技会」に向けて U18 日本代表のエントリーキャンプにも招集され全国の同世代選手と切磋琢磨した。観る者を魅了する華やかなテクニックと抜群のキャプテンシーを是非多くの人に会場で見て欲しい選手である。前川の中学後輩としてキャリアを重ね、期待の新人としてその期待に違わぬ活躍を遂げた**垣内優希奈**はタイミングよく放たれる精度ある 3P を武器に高い得点力を誇る。市立沼津戦では前川と並ぶチーム最多の 24 得点、相手が反撃の狼煙(のろし)を上げようとする時に意気消沈させるような効果的に決めた 4 本の 3P が印象に残る。また基本に忠実な守備にも評価が高い。副主将を拝命する**牧田知紘**は県新人で随所に見せた粘り強い守備から速攻につないで流れを自軍に呼び寄せるプレーが魅力、仲間のドライブに合わせてディフェンスのズレを作り最短距離で突破する。177cm **小幡美空**は前川とともに月バス誌「今年の全国高校バスケ・見るべき 100 人」にも選出された成長株、全国的に見ればサイズに乏しいチームの中で 177cm の長身は常に重宝、高さ・スピードに加えボックスアウト・スクリーンなどオンボール以外での貢献も計り知れない。その他にも、県新人・決勝リーグ 3 試合で 39 得点、試合を重ねるたびに著しい成長を見せ 3P や鋭角に切れ込むドライブを武器とし、1on1 ではゴールまでいとも簡単に攻め込む**小林陽菜乃**、市立沼津戦で途中投入されて立て続けに 3P3 本を決めて観る側の度肝を抜いた**山本爽未**、西部総体決勝でスタメン起用され力強いリバウンドとポストプレーで指揮官の期待に応えた**持田莉子**、173cm の長身を生かしてインサイドを請け負って空中戦をカバーする**舟久保汐**、西部総体上位戦でもシビアな場面で途中起用された**吉田光咲・斎藤マリアム**、そして 9 月にマレーシアで開催される「U16 アジアカップ」のエントリーキャンプにも招集され晴れて 4 月に U16 日本代表候補にも選出された 174cm **古屋和奏**など群を抜く戦力、西部総体ではディフェンス面で鍛えられた脚力が目に付き、相手チームにパス回しすら簡単にさせない徹底したバスケットを見せた。新生・浜松開誠館として迎える今大会、まずは圧倒的な力で 9 連覇を果たし初の東海制覇も狙う。

三島南は大会のたびに順位が右肩上がり、東部新人では初の決勝進出を果たし準優勝、東部総体も準優勝で初の県総体 8 強入りに手が届く位置で開幕を迎える。東部総体決勝・市立沼津戦では序盤に大量リードを奪われ万事休してしまうムードが漂う中、終盤驚異的な追い上げを見せ、最終的に 9 点差まで東部王者に迫った。特に最終 Q は 31-7 と完全に相手を圧倒、県総体に向けて大きな収穫となった。今大会では第 9 シード位置となり県新人・浜松学院に敗れて逃した県 8 強が現実味を帯びてきた。

俊足を生かして果敢にゴール下に切れ込み、時にはフリーの状況を作り出して 3P を放つ攻撃の軸、加藤学園戦では 34 得点、市立沼津戦でも 3P3 本を含む 20 得点の大活躍をした**渡邉結衣**を筆頭に、攻撃では 1on1・守備では低い姿勢からのボールプレッシャーが持ち味のキャプテン**伊澤せり**、監督の粘り強い起用法で見事成長・ボール運びが格段に上達し東部を代表する司令塔へと成長を遂げた**足立結葉**、脚を使った効果的ディフェンスが要所で機能するようになった**久芳美羽**、途中出場しても瞬時にゲームにアジャストする**山中和奏**、下級生に目を移すとチーム最高身長 166cm・スモールラインナップの中でも高さでの戦いを任せられたことに自信が生まれゴール下の熾烈な争いにも負けないようになった**中川結衣**、そして貴重なシックスマンとして要所で送り出され常に及第点以上の結果を出す**萩原咲菜**など東部準優勝をうなずける厚い戦力を誇る。上背がない分、リバウンドに境地を見出すチーム、相手の嫌がる泥臭いプレーの積み重ねで 2 回戦を突破し、初の県総体ベスト 8 を目指す。

その三島南と 2 回戦で対戦が予想されるのは中部 4 位・**清水南**。県新人 8 強のうち 4 チームを

占めた激戦区・中部を勝ち上がり初の県8強を射程圏内に捉え、第8シードで今大会を迎える。昨年中部7位で3年ぶりに県総体出場、以後大会のたびに順位を上げ続け、今回中部総体準々決勝で中部新人3位・県新人7位の静岡東を最終Qで鮮やかに逆転、金星を奪った。例年選手数が少なく、連戦が続く日程やファウルトラブル時の選手起用に頭を悩めてきたが、選手層も厚くなり他の内枠チームと比べても戦力的に見劣りしない。

昨年のこの大会で鮮烈デビューを遂げ、内外どこからでも攻められるオールラウンドな動きを披露、今大会藤枝順心戦でも3P2本を含む15得点を決めた絶対的スコアラー**宮城島夢子**や的確なスティールと**遠藤陽菜**との合わせを武器に得点を重ねる**清水佐和**を中心に、パス&ランを軸にしたスピードバスケが特色、ディフェンスに目を向けるとルーズになりがちな2線・3線付近のフォローを怠らずオフボール時のフロアバランスも意識している印象を受けた。まずは4年ぶりの県総体勝利を挙げて、三島南との女王挑戦権争いも制したい。

中部総体11位決定戦で望月優菜という絶対的エースを要する静岡女子を下し、今大会男女通じて最長スパンとなる11年ぶり(10大会ぶり)に最後の1枚である県切符を手にしたのは**藤枝東**。静岡女子は33年連続県総体出場を賭けた断崖絶壁の状況での戦い、その重圧からか終始藤枝東ペースで試合は進んだが途中静岡女子の猛反撃に遭ったが、攻め気を見せながらも上手にストーリングを織り交ぜ見事勝利を飾った。勝利を決めた瞬間の選手の喜びもさることながら、バスケ競技経験がなくても長年バスケットに携わり粘り強く指導を続ける**赤平芙未**監督の歓喜の姿に、同じ環境下でバスケに関わり続けている私の涙腺も思わず緩んでしまった。チームの特徴として、オフェンスではスピード感のあるパス回しとパスランを得意とし、3P 確率も決して低くなく内外でバランスよく点を取ることができ、ディフェンスでは昨年の総体・新人戦での県大会を逃した苦い経験を活かし早めのクローズアウトでノーモア・スリーを徹底、互いのコミュニケーションを取りながら素早いローテーションを意識しているのが目に付く。私も中部新人の島田戦・今回の静岡女子戦を見て感じたことだが、チーム全体として逆境に直面した時、つまり相手にセイフティーリードを取られた時でも諦めることなく前向きな気持ちで声を掛け合いプレーに集中出来る姿勢がチーム全体に染みついていることも今回の躍進につながったと言える。

中心となるのは大黒柱・**石川純礼**。極論から言えばこの選手が藤枝東に県切符をもたらした。ボールハンドリング・突破力・相手との間合い、どれをとっても一級品、好不調のアップダウンもない安定した選手でもある。他にも、ディフェンスの嗅覚に優れパスカットを得意としオフェンスでも相手の裏を取ることに長け攻守の要でもある**蝦名桃菜**、身体を張ったプレーやインサイドの守りやスクリーンアウトが持ち味、ダッシュ力もありスピード重視のオフェンスにおいては必要不可欠な存在、さらにはチームをけん引する力を持ち、ネガティブになりがちな状況でも仲間を叱咤激励してポジティブな雰囲気を醸し出す**森田釉月**などのメンバーで絶対王者に挑む。

このブロックの注目選手として、**鈴木湖遥・大友彩歌・高橋乃愛・平松果歩・齋藤玲愛・日比野由麻**(浜松湖東)、**森上美波・髙橋和花・谷口結花・石野海月・近藤莉愛**(浜松東)、**高根夢・酒井歌桜・芹沢天音・長澤鈴・芹澤芙実香・石田理琴**(御殿場南)、**菅野陽向・飯田萌日花・平沢妃花・平岡希星々**(清水南)、**勝又慶・元野日葵・坪内杏香里・佐々優華・田中桃葉**(静岡)、**又平藍寧・河合柚依・三石陽菜・倉澤花帆**(藤枝東)、**渡邉萌生・杉村百萌・筧恵実**(三島南)などを挙げたい。

左下のブロックは、中部総体で不利の下馬評を覆して前回王者の東海大静岡翔洋に勝って 4年ぶりの優勝を飾った常葉大常葉と、西部総体でも浜松商業を振り切り3位を堅持した浜松学院

興誠が準決勝での浜松開誠館挑戦権を賭けて争う構図が予想される。両チームは県新人5位決定戦で対決、御殿場の雪をも溶かすほどの熱戦を繰り広げ、オーバータイムの末、辛くも1点差で浜松学院(当時)に凱歌が上がった。残り数秒まで勝敗が分からなかった実力伯仲の両雄、今回も白熱した戦いが予想される準々決勝屈指の好カードになる。

県新人 6 位・**常葉大常葉**は小気味よいバスケットを展開し中部総体では連勝を重ね、決勝でも東海大静岡翔洋相手に終始リードを奪う展開に持っていきながら終盤の反撃も凌ぎ切り快勝、中部王者に復権して県総体を迎える。就任3年目を迎える**佐野恵子**監督が掲げるボールに連動して人も淀みなく動くバスケット、「佐野イズム」がチームに浸透し特に今年になってから強さを発揮し始めた印象を持つ。試合前のコートアップを見ても私が今まで抱いていた常葉の雰囲気とは一味違うものを感じ、その雰囲気がゲーム中でも持続して相乗効果を上げているように思える。

プレーヤーに目を移すと、**堀田明里**に注目したい。2年生ながらすでにチームの主力に躍り出て、ボールハンドリングやドライブ、トップ位置からの適切な指示、そして試合終盤でのディレイドディフェンスの仕掛けから相手のターンオーバーを誘うなど県内トップレベルの司令塔に成長した。主将・**池田愛央衣**は近年常葉にはいなかった長距離砲、翔洋戦でも 3P4 本を決めて空中戦にも対抗できる人材である。開誠館・小幡や翔洋・稲葉と並ぶ県内最高身長 177cm の**河島唯奈**は恵まれた体格を十分に生かしたスケールの大きいバスケットが魅力、初動が素早いゴール下でのディップアウトでチームにセカンドチャンスをもたらす。浜松学院戦でも最終盤は河島の独り舞台、中部総体で見せた翔洋・稲葉とのド迫力マッチアップも試合最大のハイライトとなった。その他にも、内外から得点を決められる**佐野梨帆**、浜松学院戦途中出場ながら 3P4 本を決める大活躍をした**鈴木愛々**、主に途中出場してチームを支える**二宮ひなの・野入ひな**なども忘れてはならない。そして1年生ながら堂々のスタメン出場を果たしパス裁きや飛び込みのリバウンドそしてディフェンスではヘルプやビッグマン対策におけるスイッチなど多彩なテクニックを見せた**池田千穂**は昨年の県協会 U15 優秀選手、ベンチに座る**風間緑**コーチ(元Wリーグ三菱電機)の高校時代の雄姿を彷彿させるような華麗なプレーの連続に私は思わず感嘆のため息を漏らした。中部総体を制した勢いのまま浜松学院興誠にリベンジをしてまずは2年ぶりの県総体8強入りを果たして4年ぶりの東海総体出場に王手をかけたい。

男子の項でも触れた通り今年度から校名変更をした**浜松学院興誠**(略称は「浜松興誠」)は県新人で常葉大常葉とのオーバータイムを制し5位を勝ち取った。試合最終盤ではどちらもルーズボールの奪い合いで球際への執念がいかに大切か我々に再確認させてくれた。西部総体では浜松南同様浜松開誠館に敗れた1敗のみで3位、第5シードで大会に臨み5年連続の県総体4強はもちろん、3年ぶりの東海総体出場を目指す。インサイド・アウトサイドを問わずあらゆるエリアでパス回しを基本とし、相手ディフェンスの隙を付いてスペースを作り出し、そこを見逃さずボールを運んで攻め入るバスケットが今年の特色である。

司令塔・**守山ひかり**がボールを的確にコントロールし、自らも 1on1 でゴールに向かう。パス回しが止まった時は 171cm **荒井香美**・169cm **髙部咲希**・170cm **袴田千愛**などの大型選手がインサイドで体を張り、ゴール下まで押し込んでフィニッシャーとしてシュートを狙う。高さを生かしたゴール下のバスケットは浜松学院時代からのお家芸でもあり、浜学と言えば「高さ」を連想する人も少なくない。**森本幸加**は自らのフリーを見逃さず積極的にシュートを放ち、シューター・**田開瑚生**は崩れた体勢でもアウトサイドシュートを高確率で決めてくる。特に田開は常葉戦相手の猛追に遭いチームが苦しむ中で適所に 3P4 本を決めて勝利の立役者になった。その他に、類まれなハンドリング技術を持つ**太田綾夢**、タイトなディフェンスで相手のパスコースを遮断する

髙柳亜知葉などキャリアを積んだ選手が多いことも強み、まずは因縁の常葉大常葉との再戦を制して東海総体出場につなげたい。

常葉は2回戦で対戦濃厚な西部5位・**浜松聖星**にも細心の注意を払わなければならない。昨年の県総体7位の実力派、基本的には3Pエリア内を主戦場とし着実な2点を重ねてゲームを進める。

特にウイングやエルボーから切れ込むドライブが天下一品の**長谷川万桜**やインテンシティの高い攻撃が持ち味の**中西杏奈**、土壇場に強いクラッチシューター・**森美希奈**が中心となって積極果敢にゴールを狙い得点を積み重ねていく。そう思えば西部総体・浜松湖東戦のように序盤からアウトサイドバスケを仕掛け終わってみれば**富永悠香・深間菜月**を中心にチームで10本の3Pを決める空中戦も挑める。新入生にクラブチーム「ONE」で Jr.ウインターにも出場した**高澤詩織**も加わり早々に西部総体で起用され得点を挙げ周囲の期待に応えた。常葉には浜松学院とのリベンジマッチの前に浜松聖星という大きな山場が待ち構えている。

このブロックの注目選手として、**神谷安璃・波多腰乃愛**(浜松聖星)、**加賀美萌杏・中村良蕾・杉本朱音・桑原弥生・北川ひより・藁科芭乃**(島田商業)、**塩坂彩菜・大畑こま・須山心穏・望月葵衣・栗田恋羽・黒田琴葉**(静岡大成)、**藤倉琴音・田村悠香・石井優杏・鬼頭菜津・野口華音・木村璃良・大竹里奈**(加藤学園)、**依田愛巳・金子未杏・江川凪・浅田海・岩田楓・五十川小梅・春川姫香・前田うらら・清優音**(沼津中央)、**五味優花・西村佳菜・波多郁藍・池谷璃子・久保田未瑠**(浜松日体)、**髙橋侑伽・古栃ふた葉・榊原碧・ワネケジナディア羽樹**(浜松学院興誠)などを挙げたい。

右上のブロックは、県新人3位で東海新人にも出場・勝利も挙げた市立沼津と、県新人で絶対女王の浜松開誠館を破りながらも翌日の浜松南との試合に競り負け惜しくも優勝と東海出場を逃した雪辱に燃える東海大静岡翔洋を中心とした展開になることは間違いない。

市立沼津は東海新人で三重2位の強豪・津西に完勝、特に第3Qに見せた鉄壁のディフェンスと強さとスピードに特化した1on1主流の攻撃により相手が意気消沈しこのクォーターを0点に抑え完封した。その間、津西は14分間に渡り得点を奪うことが出来ず、改めて市立沼津の強さを象徴する会心のゲームとなった。
今回の東部総体でも上昇気流に乗る三島南に快勝し昨年沼津商業に明け渡した東部王者を 2 年ぶりに奪回、今回は5年連続の東海総体出場を最低限のノルマとし、東海新人でのバスケを再現し12年ぶりの優勝、そして9年ぶりの全国出場も視界に捕らえる。

中心となるのは、東海リーグや東海新人でも活躍し今や東海ブロックを代表する選手に成長した**野田志**。元来ドライブや 3P、裏パスを受けてのバックシュートなど何でも器用にこなすハイスペックの選手であるが、東部総体ではスピードもフィジカルもさらにパワーアップ、決勝戦でも前半だけで28得点、すでに手が付けられないレベルまで到達している。私は春の強化試合で市立沼津の試合の審判をやらせていただく機会に恵まれたが、ウイング位置でボールマンの彼女が巧みなジャブステップやハーキー気味のステップを踏むと相手選手がそのステップに翻弄され接触がないのに足がもつれて大きく体勢を崩すシーンを目の前のトレイル位置で私は目撃した。その事実1つを取り上げても彼女のテクニシャンぶりが伝わってくるはずだ。キャプテン・**米内心菜**は献身的なプレーが特徴、阿吽の呼吸での合わせ連携やパスコースに一歩先に入って受ける頭脳的なディフェンスでチームを支える。長身173cm **上原美優**は県新人・東海大翔洋戦で負

傷、以後東海新人も含めて欠場したが、翔洋戦は16得点を決める活躍を見せ勝利に貢献した。高さを生かしたリバウンドと落ち着いて決めるフリースローが持ち味、復調具合は気になるところだが三島南戦ではスタメン出場、得点を挙げてひとまず安心させてくれた。県新人決勝リーグ3試合で53得点を挙げ、東海新人・桜花学園戦でも13得点を挙げた**岩田真奈**も多彩な攻撃スタイルで得点に絡む。他にも、津西戦でハイローや3P5本で最多の19得点を挙げた**大波心結**、東海新人でもスタメン出場しプレッシャーディフェンスから自軍に流れを引き寄せた**梅原萌々伽**、東海新人で得点を挙げた**塩川環菜・奥田倖未・飯田琉永・朝比奈詩**、そして昨年末名古屋で開催されたU15クラブバスケットボールゲームスにICHINUMA BCとして出場、チームは全国優勝を果たすとともに自身も大会MVPに輝いた大型ルーキー**・土橋莉空**もすでにレギュラーを手中にしてチームに貢献している。同じく1年生**・杉山莉寿**も土橋同様上記大会でハードワーク賞を受賞、すでに持ち味の球際での粘りと自己犠牲をもいとわない好守を見せている。今回は準々決勝で東海大翔洋、準決勝では浜松南との戦いが予想され、県新人では共に最後まで1点を争う接戦となった。今回も厳しい戦いとなるだろうが、万全な状態で試合に臨んで勝利を掴みたい。

東海大静岡翔洋についてはまずはこの一戦を語らずして先には進めない。粉雪舞い散る静岡県最果ての地・御殿場で行われた県新人決勝リーグ第2戦、前週市立沼津に3点差で敗れた東海大翔洋とウインター県予選準優勝の浜松南を一蹴した浜松開誠館との闘い。長年県勢に負けたことがない絶対王者相手に終始リードを奪いながらも試合が進むと開誠館は反撃の突破口を必死に掴もうとする展開、残り時間が少なくなって翔洋がリードを保つ中でも開誠館が徐々に点差を縮め1桁得点差になった時、選手も観客も誰もが「ここで開誠館が負ける訳がない、10年続く連勝がここで止まるわけがない、最後は開誠館が勝つだろう」という強いバイアスがかかった異様な雰囲気の中で、指揮官も選手も平常心を失うことなく冷静な試合運びを実践し、巧みにストーリングも使いながら王者に一度もリードを許すことなく快勝した盤石の戦いぶりと無類の強さは今でも私の瞼から離れない。まさに「御殿場の奇跡」と題したいジャイアントキリングだった。当日はノーメディアであったためHPやアプリで衝撃の結果を知ったマスコミ関係各社から問い合わせが殺到し、私は何回も口頭で試合の様子を伝えたため今でもその試合展開を暗唱することが出来る。翌日は気負いすぎたのか比較的相性の悪い浜松南に競り負け、初優勝と初の東海新人を共に逃し、途方に暮れる選手たちの姿は忘れられない。今回中部総体決勝で常葉大常葉に惜敗したが、絶対女王の連勝を止めた快挙は決して色あせることなく、各地区王者と遜色ない実力は太鼓判、冬の雪辱に挑むとともに2年連続の東海総体出場、そして一気に8年ぶりのインハイ出場をも狙う。

エース・177cm**稲葉叶**は静岡県を代表するインサイド、次なるカテゴリーに行っても即戦力になりうる逸材である。ローポストでの攻防や力強いリバウンドやオフボール時にコートバランスを意識した絶妙な動きはもちろん、チームがファイブアウトの戦術を取れば外からでも勝負が挑める逸材である。司令塔**・星合汐凪**の存在価値は得点そのものではなくチームが得点を生み出すまでの過程にこそあると信じる。スピードに乗ったスキップパス、ノールックも交えた巧みなパス、そして広い視野から瞬時に出される的確な指示で自分も仲間も生かす貴重ないぶし銀のハンドラーである。そして**北川怜奈**は浜松開誠館戦勝利の立役者、3P3本を含む23得点を挙げた。開誠館の怒涛の反撃に苦しむ最終Q、このままでは追いつかれると誰もが思った最終盤、試合を決める値千金のシュートを決めたのが北川のドライブ、この1本でチーム全員が勝利を確信したはずである。その他にも、県初制覇と東海新人を賭けた浜松南戦で4本の3Pを決めた**青島由來**、リバウンド・ルーズボールなど球際の泥臭いプレーに一所懸命汗をかく**森理桃子**、状況を考えながらどこに落とせば得点に結びつくか緻密に確率を計算しながらパスを出す**山内楓**、中部総体決

勝でスタメン出場を果たした**森陽奈子**などインサイドを中心としながら外からも勝負できるバスケットで、県新人決勝リーグ3点差で涙を飲んだ市立沼津とのリベンジマッチに挑む。

このブロックに中部5位**・静岡商業**がいることにどのチームも戦々恐々していることに間違いない。ノーシード・フリー抽選で臨んだ昨年のウインター県予選では県総体7位のスーパーシード・浜松聖星に勝利、続いてシード校・静岡大成戦でも接戦をものにしベスト8、9年ぶりに聖地・静岡県武道館の檜舞台に立った。中部4位で臨んだ県新人では西部新人準優勝の浜松商業に競り勝ち県8強を堅持、中部5位という数字だけでこのチームを過小評価する人は誰もいないだろうが、試合序盤からペースを掴めないと一気に静岡商業の展開に傾く要素があり、現に中部新人・県新人と連続して苦杯を喫した静岡東に中部総体5位決定戦で悲願の逆転勝利を挙げ、対戦すれば上位チームといえども全く気が抜けない戦いとなるだろう。
高さもスピードもあるツインタワー・176cm**長谷川海尋**と175cm**小杉凛**に新入生**・清水妃花梨**も加わりゴール下は鉄壁、外回りや中盤にも中部総体の静岡東戦で3P5本を決めた**落合美雨**を筆頭に**稲垣茉瑚・清水柚菜・本間瑠夏**など勝負師が揃う。2回戦は市立沼津戦が予想されるが、今回も大会の台風の目となる健闘を期待したい。

西部総体4位・昨年の県総体7位の**浜松商業**もこのブロック。昨年は安定して県8強をキープしていたが、今年の県新人では静岡商業に敗れベスト16に終わった。内枠シードと肩を並べる実力派チーム、派手なプレーはなくても着実な得点を重ねるスタイルのバスケットを展開する。
西部総体では県内有数のセンター**・大塲優菜**がインサイドを一手に担い、そこを起点に攻撃のスタイルを作り出す。相手に対応されて攻められなくなっても、そこからパスを受け取ったアウトサイド陣がディフェンスのズレを作り出し、俊足**・谷野有彩**の3Pや**玉川冴**の鋭いドライブなどで攻め入る。ブレイク時に最短距離でレイアップに持っていく**原田りの**や重心の低いディフェンスには定評がある**森下恋**、そして西部総体・浜松学院興誠戦で途中出場ながら3P2本を決めた**伊藤優月**などの面々で東海大翔洋に挑みたい。

東部9位**・沼津東**は準優勝した三島南に敗れた1敗のみ、残り全勝で9年ぶり(8大会ぶり)の県総体出場を果たした。特に9決T・1回戦で昨年県総体に出場した桐陽を1点差で下しそのまま次戦も勝って県切符を手中にした。桐陽は再三再四展望でも取り上げている河谷唯というこの世代を代表する選手を擁し、そのチームを倒しての県出場はより一層の価値がある。この試合、キープレーヤーとなった河谷に40点を取られたがそれは河谷の素晴らしさを褒めるしかなく、その他の要所をきちんと研究して抑え辛抱を重ね、3P や大事な場面でのフリースローを確実に決めるなど全員バスケの結果、最後に勝利の女神は沼津東に微笑んだ。
県総体への原動力となったのは、スピードが持ち味のキャプテン**・原聖**と長身を生かしたリバウンドの要・副キャプテンの**大木柚乃**。両選手とも信じがたいことにバスケット競技歴2年ではあるが、献身的なプレーだけでなくムードメーカーとしてもチームを支えている。そして3Pシュートや鋭いドライブが持ち味の2年生**・齋藤杏澪**や1年生ながらアグレッシブな攻めでチームに得点をもたらすルーキー**・加部環**らを中心に、試合を重ねるたびにチームの強度が進化していく可能性を秘めたチームである。続く9位決定・伊豆中央戦では一転、大事な場面のフリースローやゴールしたシュートが決まらず終始リードを許す苦しい展開であったが終盤の齋藤の活躍により逆転、9位を勝ち取り三島南に敗れただけの6勝、参加チーム最多の勝ち星で県総体勝利を狙う。

市立沼津に初戦で挑むのは西部総体で最後の県大会出場枠を勝ち取った**掛川東**。舞台は予選リーグで対戦し惜敗、辛酸を舐めさせられた宿敵・磐田南との再戦となった 11 位決定戦、お互い 2 週間で研究を重ね相手の神髄まで知り尽くした者同士の戦いに 3Ｐを得意とするキャプテン・**早川幸来**やパワフルなドライブで攻守の起点となる**今井和花**などの活躍で競り勝ち、昨年の県新人に続き総体でも県切符を手にして実に 6 年ぶりの県総体出場となる。

突出したが選手はいなくとも日頃から目の前の１試合に集中する姿勢を徹底、チームディフェンスに重きを置き、その延長上で攻撃のリズムも作っていくチームである。ポイントガードとしてチーム戦術の要になりペリメーター付近のシュートやフローターシュートで得点を伸ばす**大平陽菜乃**、鋭いドライブと固い守りを武器にチームに貢献する**三次咲妃**、足の速さと長身を生かしたリバウンドでチームに流れをもたらす**錦戸あいら**、そして大怪我による長期離脱から不死鳥のように復帰、長身を生かしたリバウンドを武器にチームのチャンスメーカーとして初の県舞台を踏むフェニックス**・櫻井瑚々**など試合を重ねるたびに経験値とスキルを上積みする戦力で優勝候補・市立沼津に挑む。

このブロックの注目選手として、**中村ののか・影山奈美・荒川結月**（浜松商業）、**小久保有沙・今西莉子・山中沙也・菊岡南那・内山留瑠・袴田茜・袴田蒼**（浜松市立）、**岩田蒼未・天野なつき・石上七菜・見﨑ひなた・青木蘭・岩堀未羽・岸山愛海・青野愛琉・小澤彩葉**（駿河総合）、**提坂みそら・増田陽南**（静岡商業）、**河合咲音・多々良心優・原崎瀬凪**（東海大静岡翔洋）などを挙げたい。

右下のブロックは、ウインター県予選・県新人ともに準優勝、もはや打倒・浜松開誠館の最右翼に挙げられる西部 2 位・浜松南が他のチームを大きく突き放す総合力を持つが、それを中部総体 3 位で今大会に臨む藤枝順心や東部 3 位・沼津商業、そして県新人 7 位に入った中部 6 位・**静岡東**などが必死に猛追する展開が予想される。

大会のたびに順位を上げ続け、もはや残るは優勝と全国出場だけになった**浜松南**は初出場、そして県立高校としても駿河総合以来 6 年ぶりの出場となった東海新人で津商業にダブルスコアの大勝で初勝利を挙げた。続く強豪・岐阜女子戦では軍門に降ったが、後半開始直後に見せた 2-3 のゾーンディフェンスが功を奏し、東海王者の脚が止まり攻めあぐねる展開が見られた。この効果的なゾーンが全国への突破口・光明となっていくだろう。高身長の選手を多く擁し、インサイドを固めたハーフコートバスケを展開、ディフェンスがインサイドを固めれば外から 3P で得点、相手が外を警戒すればボールを回してスペースを作り出してドライブを仕掛けるなど、相手の出方によってオフェンスを対応できる組織的なチーム、高い 3P 技術は健在でインサイドプレーと噛み合えば強力なオフェンス力と化す。今回は 38 年ぶりとなる東海総体出場は最低限のノルマ、その先には優勝を見据えて臨む大会となる。

スタートは新チーム始動後不動の 5 人、鷹野・萩原・新林・若林・相澤。このスターティングファイブを見ても開誠館に全くひけを取らない。西部総体では 171cm **若林鈴音**が積極的に 3P を狙いシュートレンジの広さを披露、**鈴木瑚々・鈴木華蓮**とともに高さを使ってインサイドを固めたハーフコートバスケも展開した。エース・**萩原静音**のドリブルスキルはハイクオリティー、ボール運びやドライブで縦横無尽にコートを駆け巡り、味方のキックアウトを受けて収縮された相手ディフェンスに向かって 3P を放つプレーも見せた。チームのディフェンスもよく鍛え抜かれていて、チャンスと見たら序盤から畳み込むようにオールコートでプレッシャーをかける守備が印象的だった。個々の話に戻れば、国スポ選手・そして昨年 1 年生ながら県協会 U18 優秀選手

にも選ばれた**相澤彩乃**は 14 得点を挙げた津商業戦でも見せた果敢なゴール下へのアタックと 1on1 に境地を見出す。私の印象では**新林芽衣**と言えばペネトレイト、そのままシュートに持って行っても決め切り、ディフェンスの陣形が崩れてノーマークが生まれれば、すかさずそこにパスを出してナイスアシスト出来る天才肌の玄人職人に映る。そして県新人で一躍脚光を浴びたのが**鷹野瑠美**。昨年来スタメンと控えを繰り返してきたが、四つ巴となった決勝リーグでは開誠館・前川の 66 得点を凌ぐ驚異の 73 点を挙げる得点王、特に東海大翔洋戦では相手の夢を打ち砕く 3P7 本を含む 39 得点を叩き出した。その試合の終了 5 分前、隣のコートで開誠館が勝った瞬間に浜松南の東海新人初出場が確定すると同時に初優勝の夢はついえてしまったが、以後も攻撃の手を緩めることなく冷静にゴールに向かい続けた。岐阜女子戦ではいつも通り落ち着いた間合いでフリースローも 6 本決め、時間が止まっている間に得点を加えるというフリースローの原点に返ったプレーも見せた。人呼んで「必殺仕事人」、今大会鷹野の得点シーンに誰もが沸き返るだろう。

浜松南の特徴の 1 つは控え選手の層の厚さ、エビデンスとして津商業戦はロースター全員が出場したことが挙がる。先述の鈴木瑚々・鈴木華蓮に加えて、キャプテン・**藤田結依花**は闘志あふれるハードワーカー、序盤から早々に投入されることも多く常に試合勘を大切にしている。**金森柚妃**は 3P シューター、途中出場した中部総体・浜松商業戦でも 5 本、決勝でも 2 本決め、限られたプレイングタイム内でチームのために何ができて、指揮官に何をアピールするのか十分に分かっている姿勢が見られた。そして**金子莉央**も決勝リーグすべて途中出場で全試合二桁得点の合計 38 得点、この選手が控えであることが層の厚さとスタメンのレベルの高さを証明している。西部総体でも浜松商業戦では外から勝負、一転して開誠館戦では中で得点を重ねるなどプレースタイルも根拠に基づきながら臨機応変にチェンジできる順応性が高い選手が揃う。ルーキーの**西沢紗奈**は昨年の県協会 U15 優秀選手、果たして県総体でのデビューがあるのか楽しみである。

準決勝ではウインター予選・県新人に続き市立沼津との対戦が予想される。2 試合とも残り 2 分で逆転して浜松南が勝利を掴んでいる。市立沼津にとっては因縁の相手、そして残り 2 分は魔の時間帯となる。互いに手の内を知り尽くした者同士の戦い、裏の裏まで戦術を読み合いながらの東海そしてその先の全国を賭けた一戦に勝ち、決勝の舞台では西部総体で敗れた浜松開誠館にリベンジを果たしたい。優勝すれば県立高校としては平成 22 年の静岡商業以来 15 年ぶり、浜松南にとっても昭和 58 年以来 42 年ぶり 3 回目の優勝・インターハイ出場となる。

藤枝順心は前任の静岡西時代に県総体・県新人・ウインター県予選すべてで 4 強経験の実績を持つ**寺本真佐義**氏がウインター予選から監督に就任、中部総体でも静岡商業・清水南という難敵を撃破し 3 位、今大会第 7 シードで初の東海総体出場が狙える位置に辿り着いた。

静岡商業戦では高さで大きく勝る相手に中での勝負を挑み作戦勝ち、続く東海大翔洋戦では外からの勝負を仕掛け敗れたものの 6 本の 3P を決めた。外回りには 45° ポジションから 3P もミドルも打てる**大月耶奈実**、ロッカーモーションを巧みに使ってドライブやディフェンスに体を密着されてもシュートフェイクやフックシュートを使って巧みにかわす**宮住美桃**、ディフェンスが来る前に威勢よく 3P を放つ**小池果寿**、昨年度県協会 U15 優秀選手・**松村晏奈**、インサイドには**清水咲希・石田妃菜野**が防波堤となって相手の攻撃を遮る。高さがない分、オフェンシブなスピードと 1 線に重点を置いたディフェンスで対抗する。まずは 5 位になった一昨年の県総体以来 2 年ぶりのベスト 8 を勝ち取り、公立の雄・浜松南との戦いに挑みたい。

沼津商業も侮れない。昨年は市立沼津の東部総体連覇を 16 でストップさせ東部王者として出場、準々決勝で市立沼津の返り討ちに遭ったものの 5 位決定 T を制し、ウインター県予選では浜

松学院を破り3位入賞を果たした。メンバーがごっそり入れ替わった県新人では1回戦で姿を消したが、即戦力の新入生を迎えダークホースとなって今大会に臨む。

エース・**三浦咲**は怪我で東部総体3決は欠場したが、前述の浜松学院戦ではスピードある伏兵として大活躍、レイアップ・フックシュートを確実に決めてチームを県武道館メインコートに導いたプレーが忘れられない。その他にも、経験を積み重ねてスピードが付いてきた3年生**今坂怜愛**や 2 年生の**田口心優・渡邊紅玲羽**、そして新戦力の**稲田千優・稲田千愛**姉妹の試合中における視野や判断力、そして1年生センター・**河野麻穂**の闘志あふれる攻守への姿勢はすでにチームの柱となりつつある。2回戦で予想される藤枝順心との対戦は注目のカードとなる。

伊豆中央は富士・日大三島を連破し9年ぶりの県総体出場を決めた。選手同士が常に積極的にコミュニケーションをとり互いの改善点を指摘し合い試合ごとに成長していくチーム、またキャプテンを中心にドライブからシュートへ持っていき得点を取れるのが特徴である。

キャプテンの**鳥居優菜**は中・外どこからでも点を取りプレーでチームを牽引、どんな状況でもチームに欠かせない選手、下級生に目を移すと**前田夕澄**は 3P・ジャンプショットの精度が高い選手、リバウンドにも積極的に絡みセカンドチャンスを生み出す。同じく2年生・**小塚愛莉**はゲームの状況判断力が優れている選手、与えられた役割もベンチの要求以上にきっちりこなすことができる選手である。

このブロックの注目選手として、**鈴木楓花・佐藤あや香・樋口凛優・増井日南乃・山田結月・近藤萌菜**(磐田北)、**本間心乃・遠藤ひまわり**(伊豆中央)、**篠原由愛・太田寧織・佐藤ひなた・三吉希心・鈴木娃賀**(飛龍)、**遠藤優日・高屋敷里帆・三橋可奈・菊池萌衣・渡邊真奈・鈴木李音**(三島北)、**廣田美優・杉山莉彩・渡邊夏帆・伊藤葵・池田雛希・有ヶ谷佳歩・村上花歩・伊藤葵**(静岡東)、**小澤桃萌・岩崎珠絹**(藤枝順心)などを挙げたい。